アユはギザギザの上あごの先を使い、コケを引っかいて食べます。

串を刺し終えたアユは帰ってきてからのお楽しみです。

おいしそう～どれにしようかなあ。

透明でとても小さなアユの赤ちゃん。

いい香り～。

©やなせたかし

〈物部アユちゃん〉

香美市を流れる「物部川」と物部川の「鮎」をテーマにデザインされた物部川に住んでいるアユの妖精です。アユちゃんは頭のアユのことを先輩と慕っているのですが、これには理由があります。なんでも昔、轟の滝を登りきったことがあるんだとか…。

物部川漁協の松浦さんの頭の中にはアユや川のことに関する知識がいっぱいつまっています。

## 〈物部アユちゃん〉と行く

# 川であそんで学ぼう

### 物部川はどこから流れてくるのかな？

四国山地から香美市、香南市、南国市を流れる物部川は、四国山地の三嶺から始まります。白髪山をはじめとする三嶺の山々からたくさんの水が集まる物部川の周りには豊かな自然があり、みんながピクニックや釣りなどを楽しむことができます。川の水はとてもきれいで、夏にはホタルが飛ぶような場所もあります。

### 川の恵みを未来へつなぐ

「物部川漁業協同組合」（以下、「物部川漁協」）では、7年前からアユの産卵場所づくりとともに、川の環境を改善する取り組みを続けてきました。組合長の松浦秀俊さんは「川の大切さや釣りの楽しさを伝えたい」といい、その活動の1つとして、小学生を対象とした環境学習会を開催しています。

2024年11月。この日は香美市立楠目小学校4年生47人が参加し、アユをテーマにした自然環境学習が行われました。まずは学校で、松浦さんや「物部川漁協」のみなさんの指導のもと、お昼に食べるアユの串うち体験からスタートです。順番に串を刺しながら、ヌルヌルとした感触、顔つきや歯などの特徴、川魚の香りを学びました。

### アユの赤ちゃん、こんにちは

その後、学校から物部川下流まで30分ほどバスで移動し、アユの産卵場で見学を行いました。さっそく川をのぞきこむと、泳いでいるアユの黒い影を見つけます。ときどき、パシッ！とアユが水面を飛び跳ねる音がして、生きているアユのすがたを見つけた小学生たちはみんな大興奮。石に産みつけられた卵を見たり、水槽の中で泳ぐふ化したばかりの小さな赤ちゃんを見たりと、すべてが貴重な体験です。

松浦さんは、たくさんの写真を使いながら、アユの一生を説明します。小石に産みつけられたアユの卵は2週間ほどでふ化します。赤ちゃんアユは川から海に移動し、大きくなったらまた川に帰ってきます。そして、10月下旬頃から、河口に近い浅瀬に集まり、夕方に産卵を始めます。産卵を終えた親アユたちは1年でその寿命をむかえます。死んだアユたちは、鳥や魚の栄養となり、川を通してすべての命がつながっていくのです。

### 大切ないのちをいただきます

2時間後、学校に戻ると香ばしい香りがします。出発前に串うちしたアユを、「物部川漁協」のみなさんが焼いてくれていました。「いただきま～す」。表面はパリッ、中はふんわり。焼きたてのアユをみんなが夢中でほお張ります。人間が産卵場をつくることで、今はかろうじて命のバトンタッチをしている物部川のアユ。こうして「いのちがめぐる場所を、子どもたちに心で感じてほしい」という松浦さんは、今日参加した誰かが、将来の物部川を支える一人になってくれることを願っています。

**物部川漁業協同組合**

0887-53-3224

http://www.monobegawa.sakura.ne.jp/

アユを守るために、環境保護や産卵場の整備など、さまざまな活動をおこなうことで、物部川の豊かな生態系を次世代に引き継ぐ努力をつづけています。

Instagram QR

この日の取材の様子はこちらからもりりんチャンネル

YouTube QR